



今回のテーマ：はしか（麻しん）に注意、まずはワクチン接種歴の確認を！

クスリ子ちゃん

はしかってどんな病気？

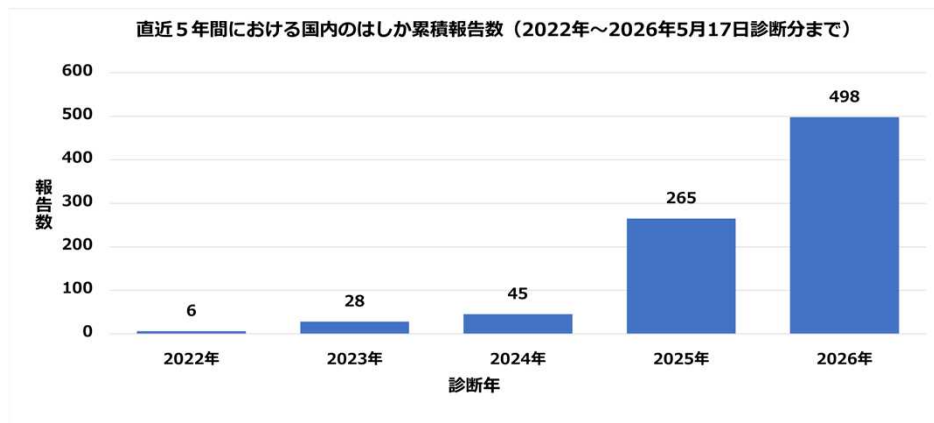
はしかは非常に感染力が強く、同じ空間にいただけで感染することがあります。軽い病気ではなく、肺炎や脳炎など重症化することがあり、先進国でも1,000人に1人が死亡するといわれています。

今、なぜ注意が必要？

国内では、2026年5月20日時点で498例の患者が報告されており、既に昨年の累計(265例)の2倍に迫る状況となっています。また、国内だけではなく、海外でも流行がみられています。

国内の患者の中には、学校や施設、電車などの公共交通機関といった人が多く集まる場所を利用しての事例も報告されています。

茨城県内でも、2026年5月28日時点で6例の患者が確認されています。国内外で流行している状況を踏まえ、注意が必要です。



※麻疹発生動向調査 | 国立健康危機管理研究機構感染症情報提供サイトから作成
<https://id-info.jihs.go.jp/surveillance/idwr/diseases/measles/graph/index.html>

どんな症状に気をつける？

発熱や咳、鼻水、目の充血などの症状が現れ、その後高熱と発疹が出るのが特徴です。風邪とは異なる経過をたどるため、早めの対応が重要です。



疑われる症状が現れた場合の対応は？

発熱や発疹などの症状がある場合は、事前に医療機関へ電話で連絡し、指示に従って受診してください。周囲への感染を防ぐため、外出や公共交通機関(電車やバスなど)の利用は避けてください。



予防方法は？

手洗いやマスクでは、はしかを予防することはできません。予防にはワクチンの2回接種が最も有効です。母子健康手帳などで接種歴を確認し、未接種や接種歴が不明な場合は接種をご検討ください。2回接種により、発症や重症化のリスクを下げることができます。

また、MRワクチンの供給不足により、2024年度に定期接種の対象(令和4年4月2日から令和5年4月1日生まれまたは小学2年生のお子さん)で期間内に接種できなかった方は、2027年3月31日まで公費で接種できる場合があります。詳しくはお住まいの市町村にご確認ください。



はしかは感染力が非常に強い感染症です。ワクチン接種歴を母子健康手帳などで確認し、発熱や発疹など体調に異変があれば早めに医療機関へ電話相談しましょう。

茨城県内のはしかの発生状況をはじめとする感染症の情報は、こちらの感染症情報センターのホームページでご確認いただけます。
<https://www.pref.ibaraki.jp/hokenfukushi/eiken/idwr/index.html>

